

ドル/円相場のトレード戦略

■ 中長期展望

2017年のドル/円相場に関しては、堅調な足取りを続ける米国経済を前提に、FRBによる3度の利上げ予想を背景にしてドルが底堅い動きとなるシナリオをメインに考えてきました。

【ドル/円 週足】



さらに、トランプ大統領が大統領選中に主張していた経済政策が実施されれば、米国経済成長は一段の加速となり、ドルの上値余地も大きく広がる可能性を考えてきました。

ドルの下値に関しては、当面110円、これを割れても108円水準までであり、110円以下は長くは続かないとの見方をしてきました。

しかし、4月17日にドル/円は108円13銭まで下落しました。

急速に円高に振れた要因は二つあり、ひとつは米国のシリア攻撃に端を発した地政学リスクの高まりであり北朝鮮に対する米国の強硬な態度が挙げられます。二つ目は、再びトランプ大統領が「ドルは高すぎる」と為替市場に直接言及してきたことです。

この二つにより、市場の見方は大きく転換してしまい、ドル買いポジションを調整する動きに繋がりました。

しかし、北朝鮮問題は長期化の様相となり、初めての日米経済対話を無難に乗り切ったことで、市場の目は米国の良好な経済指標やトランプ政権の税制改革への期待へと移り110円を回復する動きとなり、さらに108円割れを回避できたことで、ドルの底打ち感が出て、東京がゴールデンウィーク明けには114円台を回復するまで上昇しました。

その後、堅調な経済指標を受けて米国の6月利上げ期待が高まってきたことなどがドルを下支え

ドル/円相場のトレード戦略

してきましたが、トランプ大統領の情報漏えい疑惑や、更迭したコニーFBI長官に対し、今年の2月にフリン前大統領補佐官に対する捜査を中止するよう要請していたとの疑惑が浮上しドルの上値も重い状況となっています。

トランプ政権の政策遂行力への不信感が高まったことで、米景気への悪影響が警戒され、今後は政治リスクをにらみながら米国経済実体の動向が焦点となる相場が予想されます。

■ 短期展望

先週は、週初111円前半で始まり、動意の薄い取引が続きました。

その後、FOMC議事録の公表を控えて、タカ派的な内容への期待からドル買いが優勢となり112円台を回復する動きもありましたが、ドルの上値は重く112円台を維持することが出来ず、週末には111円割れまでを売り込まれました。

今週も、先週同様上値は112円半ばが重く、しかし下値も110円半ばでは買い意欲が見られることから110円～113円で方向感のない動きが予想されます。

ただし、地政学リスクやトランプ大統領のロシア疑惑、さらに米国の6月利上げは織り込んだものの、その後の不透明感が強くなっていることなど、リスクはドル安方向にあることには注意が必要でしょう。